

## お茶の水女子大学における「衣生活」に関する教育・研究 (1881-1992)

Research and Education on Clothing at Ochanomizu University

柳澤澄子

Sumiko YANAGISAWA

(お茶の水女子大学名誉教授・昭和9年3月家事科卒)

前書き (長谷部ヤエ、お茶の水女子大学教授)

現在、大多数の人に着用されている衣服は既製服として工場生産されており、人々はお金を払うだけで簡単に手に入れることができるようになった。この様になったのは、人が地球上にあらわれて以来の歴史の中でみると極く最近のことであり、日本では1960年代後半より徐々に既製服の種類や生産量が増加していった。それ故、長い年月、衣服を作ることは家庭の中で女性の重要な役割であり、それを通して結婚前の女子の教育を行ったのである。

明治政府は各地に小学校を作ったが、当時、女子には読み書きは必要ないという考えが強いため、女子の児童は少なく、何とか少しでも多くの女子に教育を受けさせようとして裁縫の科目を加えることにし、先ずそれを担当できる教員を養成しなければならないということで、東京女子師範学校に裁縫、手芸の科目が設けられた。その後、技芸科が新設され、東京女子高等師範学校家事科、東京女子高等師範学校家政科と改称された。東京女子高等師範学校がお茶の水女子大学になった1年後、家政学部被服学科となった。この間、柳澤先生は本学教授として被服構成学の教育・研究に多大な功績を挙げられた。

お茶の水女子大学家政学部被服学科は、理系の講座と文系の講座とで構成されていた。しかし家政学部が生活科学部に改組される際に、理系・文系おのおの分野の基礎をそれぞれしっかり教育し、研究内容も深まるようにと、被服学科は生活環境学科生活工学講座と人間生活学科生活文化講座とに改組された。すでに被服学科においての研究成果は、家庭よりも産業へ反映される方向に移行していたが、この改組によりその傾向は一層強くなるであろう。

このたび柳澤先生が平成11年開設のお茶の水女子大学歴史資料室のためにお書きになられた原稿を、生活工学研究に掲載させていただくことをお願いし、御許可を頂いた。生活工学に所属する方々も、改組される前までの長い間、どのような方々によりどのような教育が行われたかを知ることは意義あることと思う。

## 1. はじめに

明治以来、学校教育において「衣」の問題がどのように扱われ、推移してきたのか、母校お茶の水女子大学の百年史のお手伝いを機会に関心を持つようになりました。母校百二十年の歴史の中で、私は六十周年という節目の年に卒業、その後母校が教員養成機関としての充実期を経て、学術研究機関へと変貌する中に一時期身を置いた関係もあり、この時収集した資料[1]を手がかりとし、学科・学部、学科目・授業科目、そして授業担当教官の研究業績等により「衣生活」に関する教育・研究の推移を概観し

たいと考えたのですが、当初の意図とはほど遠く、単に専任教官のお写真と経歴・研究業績一覧等の資料を並べるに止まりました[2]。

今回は[3]、渡邊辰五郎先生がはじめて裁縫教育を担当された明治14年から、家政学部(被服学科)が生活科学部に改組(平成5年)するまでの111年間(1881-1992)を対象とし、裁縫教育や被服学の研究に当たられた専任教官27名[4]のお写真と経歴・研究業績一覧等を3冊のアルバムに収めました[2]。また、家事科卒業生で被服学の発展に寄与された3名の方を別冊として加えました[2]。明治・

大正期や戦時中の事項については、特に不明な点が多く、調査しきれない場合があります、不備な記載になって居ります。後日、加筆・修正されますことを念願致します。

なお、引用文献・参考資料を添えさせていただきます。

以上、明治・大正・昭和・平成と時の流れの中における、母校の諸事情や教官のご苦心を、僅かでも読みとって頂きますならば幸甚です。また、母校が「衣生活」に関する分野の学問を主導して来たという伝統があり、高度の研究後継者の育成については、全国的にも、母校に強く期待がかかっているという現状を、直視したいと存じます。

人類が生存する限り、問い続けなければならない

永遠の研究課題として、被服学に関する諸学が、原点に戻りつつ、調和のとれた道を歩むことを切に望みます。

注

1. 柳澤澄子「私の歩んだ道・被服構成学の半世紀」の「付表1」
2. (長谷部注)ここに書かれている「専任教官の写真と経歴・研究業績一覧」はお茶の水女子大学歴史資料室に展示されております。
3. (長谷部注)注1の文献に対して「今回は」と言われたものです。
4. 平成4年度までの退官教官

## 2. お茶の水女子大学における「衣生活」に関する科目担当の専任教官 (1881-1992)

### (1) 裁縫・被服構成学関係専任教官と在任期間

教官名	旧姓	生年-没年	着任	経過	退官年度	授業科目
渡邊辰五郎		1844-1907	M14	裁縫科教員	M18	裁縫
今村 順	谷田部	1865-1914	M.?	嘱託→助教授→教授	T 3	裁縫
神田 順		1866-1939	M33	助教授→教授	S 2	裁縫
山本 キク	吉田	1892-1973	T 6	助教授	T 7	裁縫
茂木 ヒイ	内山	1890-1978	T 9	助教授	T 9	裁縫
石田 はる		1894-1993	T10	助教授→教授	S26	裁縫
中村 ヨシ	廣田	1894-1983	T10	助教授→教授	S20	裁縫
上村 百代		1880-1967	T14	助教授, 講師	S25	手芸(刺繍)
成田 順	南部	1887-1976	T15	教授	S28	裁縫
本間 延	越智	1894-1986	S 2	助教授→教授	S20	裁縫
藤井 寿々		1911-1945	S11	助教授	S19	裁縫
原田 俊子		1918-	S19	助教授	S19	裁縫
石毛フミ子	寺元	1917-	S19.	助教授	S24	裁縫
林 雅子		1917-	S20	助教授	S24	裁縫
柳澤 澄子		1913-	S20	助教授→講師→助教授→教授	S53	裁縫・被服構成学(形態学)
* 長谷部ヤエ		1935-	S44	講師→助教授		被服構成学(生理学)
石川 欣造		1922-	S55	教授	S. 62	被服構成学(物理学)
* 田辺 新一		1958-	S63	講師		被服構成学(衣住環境学)

### (2) 服飾美学・服飾史関係専任教官と在任期間

教官名	旧姓	生年-没年	着任	経過	退官年度	授業科目
菅原 教造		1881-1967	T 9	教授	S19	教育・家事(服飾文化)
山際 靖		1901-1952	S27	講師→教授	S27	服飾史
加藤 猛夫		1896-1976	S28	講師→教授	S32	服飾史
谷田 関次		1911-1998	S30	教授	S50	服飾美学・服飾史
石山 彰		1918-	S29	講師→助教授→教授	S44	服飾意匠学
* 板倉 寿郎		1936-	S45	助教授→教授		服飾意匠学
* 小池 三枝	小寺	1936-	S48	助教授→教授		服飾美学・服飾史
* 徳井 淑子		1949-	S63	助教授		服飾史

### (3) 被服整理学・被服材料学関係専任教官と在任期間

教官名	旧姓	生年-没年	着任	経過	退官年度	授業科目
近藤 耕造		1873-1955	M37	助教授→教授	S14	家事(物理・化学)
大江 スミ	宮川	1875-1948	M40	教授	T13	家事(衣類整理)
西野みよし	恵比寿	1879-1959	T15	教授	S22	家事(衣類整理)
滝浦 さだ	折原	1908-1960	S 9	助教授→教授	S21	被服材料・被服整理

林 雅子	1917-	S25	講師→助教授→教授	S57	被服整理学・染色化学
矢部 章彦	1917-1991	S25	助教授→教授	S57	染色化学・被服整理学
松川 哲哉	1922-	S26	助教授→教授	S62	被服材料学
中島 利誠	1930-	S44	助教授→教授	H 7	被服材料・整理・染色化学
* 駒城 素子	1944-	S58	講師→助教授		被服整理学・染色化学
* 小川昭二郎	1942-	S59	助教授→教授		被服材料学
* 仲西 正	1958-	H 1	講師		被服材料学

## (付) 東京女高師家事科卒業の被服専攻者(専任教官以外) [1-3]

教官名	旧姓	生年-没年	卒業	経過	専攻分野
渡辺 ミチ		1907-1993	家事科 (S5)	東京学芸大→文化女子大教授	被服衛生学
仙波 千代		1911-	家事科 (S9)	文部省→大妻女子大教授	被服教育(私学に博士課程)
丹野 郁		1917-	家事科 (S13)	埼玉大→武庫川女子大教授	服飾史

## 3. お茶の水女子大学における「衣生活」に関する科目担当の非常勤講師 (-1992)

教官名	担当年	授業科目	教官名	担当年	授業科目
市橋 なみ	M35-T14	手芸(囊物)	山辺 知行	S1-S34	被服文化史
神田 つね	S 初期	手芸(編物)	田実 栄子	S40-S57	服飾史特論
石田 はる	S27-S46	被服構成学(平面構成)	丹野 郁	S38-S48	服飾史特論
石毛フミ子	S31-S50	被服構成学特論(縫製基礎)	杉野 正	S46-H3	服飾美学特論・芸術学特論
伊藤 令子	S46-S49	被服構成学(平面構成)	安部美智子	S46-S52	服飾美学演習・服飾史特論
祖父江茂登子	S50-S62	被服構成学(平面構成)	利光 功	S46-H3	服飾美学特講・服飾史特論
古松 弥生	S63-H4	被服構成学(設計製作)	石山 彰	S45-S57	服飾史特講・服飾史特論
渡辺 ミチ	S36-S51	被服構成計画(防寒防暑)	渋谷 裕子	S45-S48	服飾意匠学
田村 照子	S50-S63	被服構成計画(生理学)	元井 能	S49-S56	服飾史特論
栃原 裕	H1-H8	被服構成計画(衛生学)	荒木 成子	S50-S60	美学特講
小木 和孝	S53-S54	被服構成学特論(衛生学)	望月登美子	S51-H2	服飾美学・服飾史各特論
寺田 春水	S46-S48	被服構成学特講(人体構造)	菅原 珠子	S53-S59	服飾史特講
芦沢 玖美	S49-S54	被服構成学特講(人体構造)	細井 雄介	S57-S58	服飾史特論
保志 宏	S61-H4	被服構成学特講(人体構造)	成田 汀	S58-H3	服飾史特講
丸安 隆和	S40-S49	被服構成学特講(体型計測)	増淵 宗一	S58	服飾史特論
竹内 正顕	S63-H3	被服構成学特論(伝熱工学)	徳井 淑子	S60-S63	服飾史特講
入来 正躬	S61-H4	被服構成学特論(温熱生理学)	佐々木健一	S62	美学特講
磯田 浩	S47-S63	被服図学	金田 晋	S62	美学特講
鎌田 佳伸	S64-H3	被服環境物理学(被服熱抵抗)	柴田 美恵	S62	服飾史特論
棚澤 一郎	H4-	被服環境物理学(伝熱工学)	吉原健一郎	S62	服飾史特論
増山元三郎	S35-S39	応用統計学	増田 美子	H1	服飾史特論
田口 玄一	S40-S54	応用統計学	鈴木すず江	H1-H3	服飾史特講
横山 巽子	S55-S63	応用統計学	坂本 満	H1-H3	服飾史特論
鈴木 武	H1-H3	応用統計学			
酒井 哲也	S55-S62	被服構成学特論(電腦解析)			
上田 光宏	S56-S62	被服構成学特論(三次元計測)			
篠原 昭	S55-S61	被服構成学特論(衣服幾何学)			

教官名	担当年	授業科目	教官名	担当年	授業科目
高橋岩次郎	M39-T7	洗濯・染色	松浦 静雄	S43-S63	基礎化学実験
太田 勤治	S 初期	繊維・織物	小見山二郎	S59-H4	応用物理化学
菱山 衡平	S 初期	染色	中村 茂夫	S46-H4	繊維物理学
眞島 正市	S25-?	被服機構学(防寒防暑服)	飛田 満彦	S40-S59	被服学特別講義
三平 和雄	S46-?	被服機構学	角田 光雄	S52-?	応用界面化学
松岡 楯吉	S26-?	被服衛生学(人体生理学)	石川 欣造	S51-?	繊維構造論
田多井吉之介	S34-?	被服衛生学	宮坂 啓象	S55-?	繊維構造論
吉田 敬一	S46-S54	被服衛生学	西 敏夫	S60-?	高分子科学特論

## 4. 引用文献・参考資料一覧

## (1) 裁縫教育に関する資料

著者	書名	発行年	発行所
文部省	「学制百年史(第11版)」	昭和51年	
黒川喜太郎	著 「裁縫教授の新研究」	昭和9年	培風館
黒川喜太郎	著 「新版・家政学原論」	昭和58年	光生館
常見 育男	著 「家庭科教育史(第三部『明治時代の家庭科教育』)」	昭和55年	光生館

渡邊 滋 著	「裁縫教育史大要・裁縫関係法令抄」	昭和 15 年	渡邊学園
渡邊 滋 著	「日本縫針考」	昭和 19 年	文松堂出版
柳澤 澄子 著	「私の歩んだ道―被服構成学の半世紀(表1・2)」	平成 4 年	築地書館
柳澤 澄子 編著	「着装の科学(第1章)」	平成 8 年	光生館

## (2) 渡邊辰五郎(1844-1907)資料

	「渡邊学園百年史」	昭和 56 年	渡邊学園
	「共立女子学園百年史」	昭和 61 年	共立女子学園
渡邊辰五郎編纂	「裁縫教科書 巻一・二・三(柳澤澄子母りう使用のもの)」	明治 30 年	東京裁縫女学校
小森 甚作 編	「渡邊辰五郎君追悼録(コピー, 渡邊篤氏寄贈)」	明治 41 年	東京裁縫女学校
新治 韜堂 編	「渡邊辰五郎翁傳(コピー, 渡邊篤氏寄贈)」	昭和 4 年	渡邊校友会

## (3) 朴沢三代治(1822-1895)資料

	「百年のあゆみ―想起そして躍進―」	昭和 54 年	朴沢学園
植村千枝 著	「家庭科教育における技能・技術」	宮城教育大学紀要 20 号(1985)	
朴沢三代治 著	「裁縫教授用掛図―人体図」		

## (4) 今村 順(1866-1914, 旧姓谷田部)資料

谷田部 順 著	「裁縫教科書 上巻(第27版)」	明治 40 年	目黒甚七
谷田部 順 著	「裁縫教科書 下巻(第27版)」	明治 40 年	目黒甚七

## (5) 神田 順(1867-1939)資料

神田 順 著	「裁縫新教授書 上巻」第8版(神田義子氏寄贈)	大正 7 年	大蔵書店
神田 順 作品	「装束難型等約 50 点」(神田義子氏寄贈, 昭和 56 年 5 月)	旧・女性文化資料館保管	

## (6) 大江 スミ(1875-1948, 旧姓宮川)資料

	「東京家政学院五十年史」(高部啓子氏寄贈)	昭和 50 年	東京家政学院
大濱 徹也 著	「大江スミ先生」第3版(吉永フミ氏寄贈)	昭和 61 年	東京家政学院

## (7) 作品資料

上村 百代 作品	「四曲屏風―日本刺繍の風景画―」写真3枚(技法を記録するため拡大, アルバムに収納―柳澤)		
中村 ヨシ 作品	「脚絆」, 「エプロン(裁縫実習用)」と着用写真		
祖父江茂登子 作品	「東洋系民族服―直線構成の例」(難型・縮尺 1/4)		

## (8) 実践女子大学資料

	「実践女子学園八十年史」(飯塚幸子氏寄贈)	昭和 56 年	実践女子学園
	「実践女子学園創立 80 周年記念『下田歌子関係資料総目録』」	昭和 55 年	実践女子大学
	「なよ竹〔故下田校長先生追悼録〕(第 25 号)」	昭和 12 年	櫻同窓會

## (9) 大妻女子大学資料

	「大妻学院八十年史」	平成元年	大妻学院
	「大妻コタカ先生追悼録」	昭和 54 年	大妻学院

## (10) 退官記念誌関係

「渡邊ミチ先生業績集」	昭和 57 年	渡邊ミチ先生業績集編集委員会
「わが道三十年」	昭和 58 年	矢部章彦先生退官記念会実行委員会
「みがかずば―大塚学舎での半世紀―」	昭和 58 年	林 雅子先生退官記念会
「わが道明日へのみち」	昭和 62 年	古希の寿に寄せて―石毛フミ子先生を囲む会
「いしやまあきら喜寿記念集」	平成 7 年	石山 彰先生の喜寿を祝う会
「銀杏並木の三十七年」	昭和 63 年	松川哲哉先生退官記念会実行委員会
「服飾史学の五十年―丹野郁博士叙勲記念論文集―」	平成 2 年	丹野郁埼玉大学名誉教授叙勲記念誌編集委員会
「柳澤澄子先生と被服構成学研究室の歩み」	昭和 54 年	柳澤澄子教授退官記念会

## (11) 専任教官等の主な著書－昭和以降－

成田 順	著	「婦人服裁縫の基礎並びに其の指導法」(改訂再版)	昭和5年	南光社
成田 順	著	「子供服の時代化」	昭和7年	大成書院
成田 順	著	「FASHION SKETCH ファッション スケッチ」	昭和8年	大成書院
石田はる	著	「和服裁縫系統的精説」(3版)	昭和11年	中文館書店
渡辺ミチ	著	「新版・衣服衛生と着装」(2版)	昭和53年	同文書院
柳澤澄子・原田藤枝	著	「Dress Pattern の基礎と応用」	昭和41年	柴田書店
柳澤澄子	著	「被服体型学(9刷)」	平成8年	光生館
柳澤澄子	著	「被服設計のための生体学的研究論文集」	昭和58年	
S. Yanagisawa		VII Applied Anthropology. Somatological Studies for Clothing Design in Japan. (1983)	日本自然科学集報第8巻	日本学術会議編
石毛フミ子	著	「被服の立体構成(理論編)」第二版	平成2年	同文書院
加藤猛夫	著	「十七世紀英国社会とジョン・ミルトンの思想の研究」	昭和50年	中部日本教育文化会
谷田関次	著	「生活造形的美学」(20刷)	平成10年	光生館
谷田関次・小池三枝	著	「日本服飾史」(3刷)	平成9年	光生館
石山 彰	著	「服飾意匠－アプローチと演習(8刷)」(石山彰氏寄贈)	昭和54年	光生館
谷田関次・石山 彰	著	「服飾美学・服飾意匠学(20刷)」(同上)	昭和61年	光生館
丹野 郁	著	「南蛮服飾の研究」(祖父江茂登子氏寄贈)	昭和51年	雄山閣
丹野 郁	著	「近代西欧服飾発達文化史」(同上)	昭和48年	光生館
林 雅子	著	「新版・衣料学概説」(15刷)	平成10年	光生館
林 雅子 監修		「被服管理学および実験」(2版2刷)(土橋明美氏寄贈)	平成10年	文化出版局
矢部章彦・林 雅子	著	「被服整理学・染色化学」(20刷)	平成5年	光生館
松川哲哉 編著		被服材料学・被服機構学・被服衛生学(猪又美栄子氏寄贈)	昭和45年	光生館

## (12) 菅原 教造 (1881-1967) 資料

菅原 教造	著	「図案から製品へ」	大正9年～昭和12年の間に執筆
菅原 教造	著	「服飾と音楽」	昭和12年
菅原 教造	著	「家事生活概論1」	昭和14年
菅原 教造	著	「衣服論ノート」	昭和16年
菅原 教造	著	「生活を住む」(未発表, お手書きの原稿は祖父江茂登子氏保存)	昭和18年
菅原 教造	著	「工芸貼絵試論」	昭和21年
* 菅原 教造	著	「着物の考え方と感じ方について」(お手書き原稿)	昭和23年
菅原 教造	著	「着物の考え方と感じ方について－工芸貼絵小論」	昭和23年
菅原 教造	著	「服装概説－昭和25年度－」	昭和25年
* 菅原 教造	著	「服装文化論－昭和28年度－」	昭和28年
* 菅原 教造	著	「色彩研究」	昭和30年
菅原 教造	著	「随感随想」	昭和36年
菅原 教造	著	「森の顔」	昭和37年
菅原 教造	著	「服装概説－菅原教造先生遺稿集(柳澤澄子編)」	平成元年
菅原 教造	著	「年譜・遺稿集関係資料」(黒表紙のファイルに挿入)	近藤出版社

注-\*印は、菅原先生が最後までお手許に置かれたもので、御令息・菅原浩・元東大教授よりお預かりし、母校への寄贈の御了承を頂いた。昭和14年遺稿の講義録等は毎年書き改められ、田端謄写堂に依頼して謄写版刷りにされた。－柳澤－

## ※ 体格調査関係資料

日本規格協会	「日本人の体格調査報告書－衣料の寸法基準設定のための－」	1970
日本規格協会	「日本人の体格調査報告書－衣料の寸法基準設定のための－」	1973
日本規格協会	「日本人の体格調査報告書－既製衣料の寸法基準作成のための－」	1984
	「既製衣料のための体格調査関係資料」(衣料サイズ海外調査報告書を含む)	

## ※ 母校の拡充・改組等に関する資料

女子師範大學特設の必要－昭和7年
東京女子帝國大學創設趣旨並組織－昭和20年
お茶の水女子大学開学事情(藤本萬次)他
お茶の水女子大学大学院家政学研究科創設関係他
(付)日本家政学会創設関係他

## ※ その他

東京女子高等師範學校・第六臨時教員養成所一覧	－昭和4～5年, 5～6年, 7～8年－
東京女子高等師範學校・東京女子臨時教員養成所一覧	－昭和16～17年－
東京女子高等師範學校規則	－昭和18年度－

東京女子高等師範学校の「徽章」 --大正2年制定--  
 裁縫教科書・家事教科書・女子禮法教科書(高等女学校用) --和綴, 昭和初期の例--  
 奥田式「足袋型紙」 (奥田裁縫女学校出版部) 昭和18年(52版)  
 「袖形及襟形」 (共立女子職業学校新案) 明治38年頃, 柳澤澄子母りう使用のもの

5. お茶の水女子大学の沿革概要 - 家政学関係 - (1875-1977)

年度	事項	家政の科目・専攻
明治8年(1875)	東京女子師範学校創立	手芸(明治8年の教則による)
明治12年(1879)	学科課程改正	裁縫*1
明治16年(1883)	学科課程改正	裁縫*2・家政*3
明治23年(1890)	女子高等師範学校設立(高等師範学校女子部は明治19年)	家事*4
明治32年(1899)	「技芸科」新設, 文・理・技芸の3分科制となる	家事*5
明治41年(1908)	東京女子高等師範学校改称(奈良女子高等師範学校設置)	
明治43年(1910)	「技芸科(第1部・第2部)」となる	家事*6・裁縫*7・手芸及手工*8
大正3年(1914)	技芸科を「家事科(第1部・第2部)」と改称	学科目の内容は変わらない
大正8年(1919)	家事科第1部を「家事科」とし, 第2部を廃止	家事・裁縫・手芸*9
昭和4年(1929)	家事科の学科目の内容改正, 家事又は裁縫を選修*10	家事*11・裁縫*12・手芸*13
昭和18年(1943)	家事科を「家政科」と改称, 育児保健又は被服を選修*14	家政*15・育児*16・保健*17・被服*18
昭和24年(1949)	お茶の水女子大学設立, 理家政学部「家政学科3専攻」	児童学・食物学・被服学*19
昭和25年(1950)	「家政学部」独立, 3学科と1講座	児童学・食物学・被服学*20, 共通講座*21
昭和38年(1963)	大学院「家政学研究科(修士課程)」設置*22, 3専攻	児童学専攻・食物学専攻・被服学専攻
昭和43年(1968)	「家庭経営学科」増設*23, 家政学部4学科となる	
昭和47年(1972)	「家庭経営学専攻」増設, 家政学研究科4専攻となる	
昭和51年(1976)	大学院「人間文化研究科(博士課程)」設置*24, 2専攻	比較文化学専攻・人間発達学専攻
昭和52年(1977)	「人間環境学専攻」増設, 人間文化研究科3専攻となる	

参考文献:「東京女子高等師範学校六十年史」(1934),「お茶の水女子大学百年史」(1984)お茶の水女子大学百年史刊行委員会,

常見育男著「家庭科教育史-増補版」(1980)光生館

- 注
- \*1「裁縫」 運針法・浴衣・胸衣・袴・綿入・袴・羽織・帯
  - \*2「裁縫」 小・中・本裁衣服・帯・羽織類・袴・足袋類
  - \*3「家政」 住居・飲食・衣服・出納・養生・育児等
  - \*4「家事」 裁縫・作法・衣食住・簿記・育児(M24裁縫に重点)
  - \*5「家事」 衛生・管理・衣食住・割烹・看護・育児・家計簿記・裁縫・編物・刺繍・教授法(M38)
  - \*6「家事」 衣食住・管理・洗濯・掃除・割烹・養老・育児・看護・家庭経済・家庭簿記・園芸・実習・教授法
  - \*7「裁縫」 裁方・縫方・繕方・教授法
  - \*8「手芸及手工」 編物・刺繍・造花・糞物・組糸・細工(紙・竹・土・木・金)・教授法
  - \*9「家事科第1部」の学科目+手芸(編物・刺繍・糞物)
  - \*10 第3学年より, 家事・裁縫のいずれかに重点
  - \*11「家事」 繊維及織物・衣類整理法・食物及栄養・料理法・住居・養老・育児・看護・家事経済・家計簿記・家事概論
  - \*12「裁縫」 和服裁縫・洋服裁縫
  - \*13「手芸」 編物・刺繍
  - \*14 第3学年より, 育児保健・被服のいずれかに重点
  - \*15「家政」 家政学・家事経済・家計簿記・住居・家事概論
  - \*16「育児」 育児・看護・家庭教育・実習
  - \*17「保健」 生理及衛生・食品及栄養大意・食物・食品及栄養実験
  - \*18「被服」 裁縫・被服整理・手芸・日本服装史
  - \*19 理家政学部家政学科における被服学専攻は,「被服科学」と「被服文化」の2講座。「被服文化」講座の学科目「被服学」の内容として「被服工作」が入っており,これが従来の授業科目「裁縫」に該当。
  - \*20 家政学部の独立に伴い,被服学科の第2講座は「被服構成」と名称を改め,授業科目は「被服工作論」となる。これを「被服構成学」と改めたのは昭和32年。
  - \*21「共通講座」における授業科目は,家族経済学・家計簿記論・家庭管理学・住居学・家庭科教育法・家政学原論等。家族関係学を加えたのは昭和42年。
  - \*22 家政学研究科設置に先立ち,昭和37年に家政学部の3学科はいずれも3講座となる。現在,3学科は各4講座。被服学科では,昭和37年に第2講座は「被服構成学」と「被服美学」,同44年に第1講座は「被服材料学」と「被服整理・染色科学」にそれぞれ独立し,合わせて4講座となった。
  - \*23 家庭経営学科は,「家政学原論」・「家庭経済学」・「家族関係学」の3講座
  - \*24 人間文化研究科は後期3年のみの博士課程

## 6. 被服環境学分野の進学可能な大学院博士後期課程設置状況 (平成10年度全国大学一覧による)

国公立大学大学院	研究科	設置年	専攻	入学定員
お茶の水女子大学	人間文化研究科	S52. 4. 1.	人間環境学→人間環境科学 (H10. 4. 1)	16
奈良女子大学	人間文化研究科	S56. 4. 1.	生活環境学	7
大阪市立大学	人間文化研究科	S50. 3. 25	生活環境学	6
				計 29

私立大学大学院	研究科	設置年	専攻	入学定員
大妻女子大学	家政学研究科	S57. 3. 17.	被服環境学→人間生活学 (H7. 12. 22)	3
文化女子大学	家政学研究科	H1. 3. 17.	被服環境学	2
昭和女子大学	生活機構研究科	H1. 3. 17.	生活機構学	5
武庫川女子大学	家政学研究科	H2. 3. 19.	被服学	2
日本女子大学	人間生活学研究科	H4. 3. 19	生活環境学	5
東京家政大学	家政学研究科	H5. 3. 19.	人間生活学	2
共立女子大学	家政学研究科	H6. 3. 16.	人間生活学	3
郡山女子大学	人間生活学研究科	H7. 12. 22.	人間生活学	3
神戸女子大学	家政学研究科	H8. 12. 19.	生活造形学	2
				計 27

## 7. 追記

現在、猪又美栄子氏は昭和女子大学教授、岡田宣子氏は文化女子大学教授

大妻女子大学では、昭和60年3月第1回の学位記授与式を挙行しているが、以後本年3月までに22名(甲・7名、乙15名)のも之が博士号を取得している。そのうちの9名(甲・4名、乙・5名)は、お茶の水女子大学家政学部被服学科及び前身校の卒業生である。

とを付記させていただきます。

平成11年3月3日

柳澤澄子

## 8. あとがき

この仕事の構想につきましては、林雅子お茶の水女子大学名誉教授、石毛フミ子上越教育大学名誉教授の貴重なご助言を、資料の収集・整理では、祖父江茂登子元埼玉大学教授はじめ、現在お茶の水女子大学で被服学に関わる授業を担当されている小池三枝教授、長谷部ヤエ教授、駒城素子教授、同ジェンダー研究センター館かおる教授、桜蔭会の雛形明美事務長等のご助力を頂きました。

また、明治時代の先生方の資料は、御令孫・渡辺篤氏(渡辺辰五郎資料)、石原武夫氏(今村順資料)、神田義子氏(神田順資料)の特別なご配慮によるものです。

お世話様になりました多くの方々に心から厚くお礼を申し上げます。なお、直接・間接にお教えを受けました師への、言葉では尽くすことのできない感謝の気持ちをもって、資料の整理に当たりましたこ